

職員研修
有志指導者研修
要請研修

## 人づくり・地域づくり関係職員等研修講座（県北地区）

県北教育事務所管内の市町村の生涯学習関係職員、公民館・地区センター、地域づくり関係職員を対象に、障がいや、障がい者の地域活動支援事例について理解を深めることを目的に実施しました。

### 【講義】「『誰もが』共に学び、生きるための『障がい』理解」



↑ 講義を進める梅野氏

はじめに、県立久慈拓陽支援学校の梅野佳和氏より、基本的な障がいについて講義をいただきました。梅野氏は2020オリンピック・パラリンピックを機に作成された「心のバリアフリーユニバーサルデザイン2020行動計画」の動画を基に、多様な人たちが共生していくために必要なポイントについて詳しく伝えてくださいました。また、世の中にある「障がい」に対する様々な誤解について説明され、気がついた際にどのように対応すればよいか、その対応方法についても、特別支援学校での対応例など交えながらご説明いただきました。受講者からは「障がいのあるなしに関わらず、人と人が関わるうえで必要なポイントだと感じた」といった感想が寄せられました。

### 【事例紹介・演習】「久慈地域卓球バレーをとおした共に活動する場づくり」

令和2年度文部科学大臣表彰を受賞した、久慈地域卓球バレー協会会長の新里氏、副会長の類家氏から、卓球バレーの魅力、今後の卓球バレーの発展等について話をいただきました。お二人からは、障がいのある無しに関わらず楽しめるスポーツであることや、ルールを柔軟に変更することで、誰でも共に活動できるという素晴らしさについて紹介されました。その後、実際に受講者同士チームを作り、実際に卓球バレーを体験しました。会場には終始笑い声が絶えず、得点が決まったりミスがあったりしても、すべてが笑いになっていました。受講者からは「ぜひ講座の一つとして取り入れたい」といった声がありました。



↑ ルールを説明をする新里会長（左）と、類家副会長（右）



↑ チームに分かれ、卓球バレーを体験する受講者



↑ ルール違反でファウルになっても笑顔



↑ 初めての卓球バレーに皆さん興味津々

#### 《受講者の声》

- ・障がい等について、少しでも理解を深められたと思った。
- ・多様な存在や考えを認め合うためには、たくさんの出会い、様々な考え方に触れる機会が大切だと感じた。
- ・卓球バレーはルールを柔軟に変更しながら、誰もが共に活動できると思った。
- ・ぜひ、町民講座の1つに組み入れたい。

#### 《受講者の評価》

A (有意義)	87.5%
B (どちらかといえば有意義)	12.5%
C (どちらかといえば有意義でない)	0%
D (有意義でない)	0%

#### 《担当者（阿部から）》

共に学ぶ、共に生きるということは簡単ではなく、お互いの理解や思いを寄せることが重要です。そのためには、多様な人の存在や意見、考え方があること意識していくことから始めましょう。